

1 はじめに

本校では、めざす児童像として、「進んで学習し、自分の考えをもち豊かに表現できる児童」を掲げている。また、目標達成のための施策(大沼っ子育てプラン)として、「伝え合い・学び合い」の学習を重視している。「伝え合い交流する活動の充実」とは、活動や体験を振り返ったり、自分なりに工夫して整理したり、子供同士の考えを交流させる場を設定したりするなど、伝え合うための支援を工夫することである。特に、言語活動によって他者と交流し、互いの気付きを認め合うことは重要であると考えている。生活科において、子供同士の伝え合いの場を設定することで、子供が対象に関わる意欲を高めたり、気付きを高めたりすることができるのではないかと考え、実践を進めていった。

2 指導案

(1) 単元名 あそび 大すき あつまれ！

(2) 目標

- ① 身近にある物を使って、動くおもちゃを作って遊ぶことに感心をもち、楽しく遊ぼうとしている。
(生活への関心・意欲・態度)
- ② 身近にある物を使って、よりよく動くように工夫しながらおもちゃを作り、みんなで楽しく遊ぶためのルールを考えて、工夫点や遊び方を絵や文章に表すことができる。
(活動や体験についての思考・表現)
- ③ 遊びを工夫し、作ったり、友達と一緒に遊んだりすることの面白さに気付くことができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

(3) 指導にあたって

○本単元は、学習指導要領の内容(6)「自然や物を使った遊び」と(8)「生活や出来事の交流」に基づき設定したものである。身近にあるいろいろな物を利用しておもちゃを作ったり、遊び方を工夫したりすることを通して、おもちゃを作る楽しさや、友達と活動することの楽しさに気付くことができる単元である。また、幼稚園児や1年生を自分たちが作ったおもちゃ大会に招待し、相手のことを考えながらおもちゃを作りかえたり、遊び方を工夫したりすることは、人と関わり、自分の考えをもって表現する上でも大切だと考える。

○本学級の児童は、活動的で作業を好み、いろいろなものを作るのが大好きである。また、今までにおもちゃを作った経験がある児童が多い。昨年度の1学年の時には、2学年に招待されて、おもちゃ大会も経験している。

実態調査 9月14日 26人調べ	
1 ものを作って遊ぶのは好きですか。	好き:25人, どちらかといえば好き:1人, きらい:0人
2 おもちゃを作ったことがありますか。どんなものを作りましたか。	はい:26人 いいえ:0人 木のぼりおさる, パラシュート, 船, トコトコ車 など
3 身近にあるものでどんなおもちゃを作りたいですか。	ロケット, 動くロボット, ウイングカー, 船, 牛乳パックガエル, あやつり人形

○指導にあたっては、活動全体を通して、幼稚園児や1年生を招待するおもちゃ大会開催を目標に、活動に意欲的に取り組めるようにしていく。特に相手意識をもって、幼稚園児や1年生に楽しんでもらうための工夫について主体的に考えさせたい。身近にある物を使ったおもちゃ作りの活動では、必要に応じて改良を重ね、試行錯誤しながら作り方や遊び方を工夫させることを大切にしたい。本時では、幼稚園児や1年生が楽しめるおもちゃになっているか考えさせながら友達のおもちゃで遊ばせる。「いいところ」「工夫が必要なところ」ごとに整理し、友達の助言をもとにおもちゃを改良したり、遊び方を考えたりする活動を通して、気付きの質を高めていく。おもちゃ作りの楽しさを味わわせるとともに、思考し表現する力もつけていきたい。

(4)指導計画(全13時間)

第1次 教師が作ったおもちゃで遊び、よく動く動かし方を友達と話しあったり工夫したりする。

・・・2時間

第2次 おもちゃを自分で工夫して作り、動かして試す。動きをよりよくするための方法を考え、改良する。

・・・3時間

次	時間	学習活動・内容	評価の観点
3	1 (本時)	友達の作ったおもちゃで遊び、おもちゃのいいところ、工夫できるところを見つける。	・友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを表現している。(発言・ワークシート)
	2・3	おもちゃを改良したり、遊び方を工夫したりする。	・工夫できるところを改良したり、遊び方を考えたりしている。(行動・発言)

第4次 おもちゃ大会を開くための準備をし、幼稚園児や1年生をおもちゃ大会に招待して遊ぶ。

・・・5時間

(5)本時の指導

- ① 目 標 友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを見つけ表現することができる。
- ② 準備・資料 おもちゃ、付箋、ワークシート、話型(掲示物)

(6)展 開

学 習 活 動 内 容	活動の支援と評価
	・全体への指示や支援 ◎個に対する配慮や支援 ★称賛
<p>1 本時の活動内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちのおもちゃのいいところや、くふうできるところを見つけよう。</p> </div> <p>【やくそく】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じゅんばんをまもる。 ・友だちとぶつからないようにする。 ・なかよくあそぶ。 <p>2 友達のおもちゃで遊ぶ。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;">  <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>ジャンプがえるは、高くとぶから幼稚園生もよろこぶね。</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題や本時の活動の流れを掲示することで、活動の見通しをもたせる。 ・幼稚園児や1年生と一緒に遊べるおもちゃを作ることを確認することで、相手意識をもって活動できるようにする。 ・安全に活動できるように、活動時の約束の確認を随時行う。 ◎友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを見つけられずに戸惑っている児童には、幼稚園児や1年生の立場になって、どんなおもちゃがいいのかを考えさせる。 ・おもちゃの遊び方で、「難しい操作はないか」「ど

木のぼりは、背の低い子のために、ひもを長くするといいいね。



手ぶくろおばけには、顔をつけた方がおもしろいね。

3 友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを発表する。

4 本時の学習を振り返る。

んな説明が分かりやすいか」などポイントを示すことで、工夫した方がいいところを見つけられるようにする。

・活動しながら、友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを付箋にメモさせ、ワークシートに貼らせことで整理する。

(思・表)友達のおもちゃのいいところ、工夫できるところを見つけ表現することができたか。
(発言・ワークシート)

・話型「わたしは、～のおもちゃの～のところが、～だと思いました。」を提示することで、誰もが自信を持って分かりやすく発表できるようにする。

・次時は本時の気づきをもとにおもちゃを改良したり作り方の説明を工夫したりすることを確認し、学習の見通しを持たせる。

・次に試してみたいことをワークシートに記入させ、学習意欲を高める。

★課題をもったり次時の活動を考え始めたりしている児童を称賛し活動が発展するように助言する。

3 資料(写真)

(1) ワークシートと伝え合いの様子



(2) 近隣の幼稚園児と1年生を招待したおもちゃ大会での様子



4 成果と課題

(1) 成果

今回の単元「あそび大すきあつまれ！」において、どの児童も熱心に取り組んでいた。それは、「おもちゃ作り」という児童にとって意欲的に活動できる題材であったからだと考える。また、学習のまとめとして、近隣の幼稚園児や1年生を招待するという活動を設定したことで、相手意識が明確になり、児童の活動意欲を高めることができた。また、友達が作ったおもちゃで遊び、気付いた事を交流し合う活動では、「魚つりの魚に点数を書いておくと友達と勝負しながら楽しめる。」「牛乳パックがえるの輪ゴムの本数を増やしたらどうかな。」と自分の言葉で具体的に伝えようとする児童が多くみられた。また、友達の意見を認め合う姿も見られた。「おもちゃを作って終わり」という一時的な活動ではなく、出会い【最初の気付き】、関わり【気付きの質の高まり】、広げると深める【自分の想いを深める】と段階を踏んで学習を進めることができた。

近隣の幼稚園児を招待してのおもちゃ大会は、昨年度から始まった取り組みである。幼稚園からも好評の声をいただき、今後も続けていきたい活動の一つである。

(2) 課題

○気付きの質を高めるためには、低学年の児童の発達段階に合わせて身につけたい思考力や表現力について分析し、明らかにしていく必要がある。これらの力をつけるための指導法の研究に努めたい。

○児童の気付きの見取りにおいて不十分であった。児童の行動や発言、ワークシートからどのように評価するのか。また、学年内における評価基準の設定に課題が見られる。発達段階において絵による振り返りが多い低学年にとって、丁寧にまとめられたワークシートの児童が評価の高くなる傾向にある。